

教 育 情 勢



3 点についてお話す。

1 点目は、「平成 26 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 調査結果」についてである。

道小・道中はそれぞれ、「現状及び今後の方向性について共通理解を図りたい」とのことから、道教委の健康・体育課との場をもった。

まず、結果の概要について次のような話があった。

実技に関する調査では、「体力合計点」では、全国平均を下回ってはいるが、平成 25 年度と比べて、小学校男女、中学校女子で全国との差が縮まった。また、各種目においても同様に、平成 25 年度と比べ、多くの種目で全国との差縮まった。

このことは、学校での体力向上に向けての「P・D・C・Aのサイクル」が回り始めている成果と思われる。

今後、「市町村別の結果や体力向上策を道教委の報告書に掲載する」とのことで、早ければ2月上旬に、遅くとも中頃にはまとめたいたの予定とのことである。同時に、1～2月に「全管内で市町村教育長や校長会等との意見交換会」を実施することである。

2 点目は、「早寝早起き朝ごはんフォーラム開催」についてである。

PTA関係をはじめ、学校関係、教育委員会などの委員で構成する「道子どもの生活習慣づくり実行委員会」が準備をし、開催した。道小・道中からも幹事が多く参加している。フォーラムは、

「～全ての子どもたちに、ネット利用も含めた望ましい生活習慣の定着を～『どさんこアウトメディアプロジェクト』電子メディアへの接触時間を見直そう」

をテーマに開催された。シンポジウムの最後には、

- ・ネット利用も含めた望ましい生活習慣の確立のために
- ・ネットトラブルの根絶のために
- ・ネット利用に関わる心と体の健康課題の解決のために

次の「3つのアクション」が提起された。

- ① 「ノーゲームデー」の設定・推進
- ② 保護者や児童・生徒に対する学習機会の提供
- ③ 様々なアイテム（学習資料・チェックシート等）の開発・作成

フォーラム後、実行委員会の佐藤彰会長（道PTA連合会長）は「これからもいろいろな方々の力を借りながら、発信していくなど、継続性をもって取り組んでいきたい」と話していた。

3点目は、「学校統廃合」についてである。

第4回理事研修会でも話題にしたが、文部科学省は昨年12月25日、公立小中学校を統廃合する際の基準を約60年ぶりに見直す方針を決めた。小学校で4[＊]以内、中学校でも6[＊]以内としている通学距離に加え、「おおむね1時間」と通学時間も示し、より遠くの学校と統合できるようにする。また、学級数別に対応例を示し、特に全校6学級未満の場合、統廃合も含めた検討を強く求める内容である。

1月中にも学校の適正配置についての「手引」を公表する。市町村教育委員会が判断する際の目安で、強制力はないとのことである。

下村博文文科相は「小規模校の存続を選ぶ市町村の意向も尊重されるべきだ」とするものの、省内の有識者会議では、小学校で全校6学級未満の場合、統廃合を促す案も浮上している。

道教委では「国の手引を参考に他府県の事例を収集したい」という報道もあった。

また、ある新聞の社説には「全国一律に考えられる内容なのだろうか？地域の実情こそ大事なのではないだろうか」との内容も目にしている。